

**安達泰盛** 武将。文武に優れ、鎌倉幕府の重鎮として枢機に参与したが、政敵平頼綱と結託した貞時に滅ぼされた

あだちやすもり

・ ・ ・ ・ ・ 1231 = 源頼朝以来の功臣として代々幕政枢機に参画してきた安達氏の義景の子に生まれる。母は小笠原時長女。  
御成敗式目・1232 = 1歳：

多くの兄弟のなかで抜きん出た存在から、祖父安達景盛の厳格な躰を受け、文武ともに優れて育ち、

・ ・ ・ ・ ・ 1240 = 9歳：

**北条時頼執権**1246 = 12歳：

九条頼嗣将軍1244 = 13歳：番頭，

宝治合戦・ ・ 1247 = 16歳：\_三浦氏討滅後は、唯一残った有力御家人となる。この年の將軍家遠笠懸御覧の際、射手を命じられ、  
・ ・ ・ ・ ・ 1248 = 17歳：この年、祖父安達景盛が死去。

引付衆始・ ・ 1249 = 18歳：

・ ・ ・ ・ ・ 1250 = 19歳：\_執権時頼に選ばれて、將軍藤原頼嗣の近習となり、

日蓮宗始・ ・ 1253 = 22歳：父義景が死去すると、\_引付衆に任じられて、政局に参与しはじめ、

宋船制限・ ・ 1254 = 23歳：秋田城介となり、

**北条時頼出家**1256 = 25歳：\_評定衆に任ぜられる。

・ ・ ・ ・ ・ 1258 = 27歳：

政治以外の活動として、信仰心の厚い一面がみられ、とくに祖父景盛以来の高野山との関係は著しい。

**北条時頼没**・1263 = 32歳：執権時頼死去に際して弔問に訪れた勅使の接待役、

・ ・ ・ ・ ・ 1264 = 33歳：\*三番引付頭となり、以後4年間越訴奉行をつとめる。

・ ・ ・ ・ ・ 1265 = 34歳：京での山門・寺門騷擾の評定に当る。この年より始まる高野山参道の町石建立に寄付し、生涯続ける。

將軍入替・ ・ 1266 = 35歳：\*將軍宗尊親王廃立に関連して、北条時宗・政村・実時とともに秘密会議に参加するなど、幕政の重要局面には必ず名を列ね、以後約20年間、執権北条政村・時宗・貞時の3代にわたって、幕府の重要な地位を占め、その権威は年とともに盛んとなり、一族は隆盛をきわめて行く。

・ ・ ・ ・ ・ 1267 = 36歳：

**北条時宗執権**1268 = 37歳：

二月騷動・ ・ 1272 = 41歳：肥後国守護。実朝末亡人八条禅尼からも信頼され、この年、遍照心院への莊園寄進手配を依頼される。

・ ・ ・ ・ ・ 1273 = 42歳：漢籍を下賜されるほど評価された後嵯峨上皇没後一周忌にも、高野山に石碑を建立。

この間、鎌倉に2度下向してきた世尊寺経朝から書道の指導を受ける。

**元寇文永の役**1274 = 43歳：

元使斬殺・ ・ 1275 = 44歳：蒙古合戦に参加した竹崎季長が恩賞に不満で直訴に訪れた際も、不備についての確な判断を下し、

・ ・ ・ ・ ・ 1276 = 45歳：

異国降伏祈祷1280 = 49歳：高野山金剛三昧院の寺務職の法爾から、鎌倉で灌頂を受けた。

**元寇弘安の役**1281 = 50歳：弘安の蒙古襲来の時には、泰盛は子盛宗を守護代として九州に下し、みずからは幕府でも重要な職で、実質的な権勢を振いうる恩沢奉行として鎌倉に在った。

日蓮没・ ・ ・ 1282 = 51歳：嫡子宗景が評定衆に加わり、泰盛は従来北条一門に限られていた陸奥守に任ぜられた。また泰盛の女は北条時宗の室となって貞時を生んでおり、安達一族の権勢は景盛以来、執権北条1門と血縁関係をかさねてきていることにも基づいている。この年、秋田城介を子宗景に譲り、

**北条時宗没**・1284 = 53歳：執権時宗の死により出家した。\*時宗の急逝により、そのころ御内人の代表的存在である内管領平頼綱と、外様御家人の代表者としての安達泰盛の対立が表面化するに至り、両者は権勢を争って互いに讒言しあったが、たまたま泰盛の子の宗景が源姓を名のったことから、平頼綱はこれをもって宗景が謀反を企て將軍になるうとしていると、幼い執権貞時に讒し、

霜月騷動・ ・ 1285 = 54歳：\*貞時を擁した頼綱以下の御内人勢力に攻められ、一族と党とともに滅びた(霜月騷動)。

その他公家との接触もさかんで、関白鷹司兼平に剣・馬・砂金などを贈ったこと、朝廷の書道家たる世尊寺経朝から書論を贈られたことなども見える。また馬術や射にもすぐれていたことが知られる。